

●シリーズ●わが町の文化財へ107

広島県重要文化財

絹本着色釈迦十六善神像

昭和53年10月16日指定

この画像は、今高野山の塔頭寺院である龍華寺の御影堂（町重文）に伝来した仏画です。

絹地に大般若経を護る護法善神を描いたもので、釈迦如来を中心に十六善神を配している形をとっています。室町時代の作と推定されますが、江戸時代の正徳3年（一七一三）と文政7年（一八二四）に修復されています。

寸法は縦102cm、横50cmで、もとは鮮やかな色彩が見られたようですが、長年に渡る燈火崇拜により燻されて全体的に黒っぽく変化し、そのことが歴史的風合いを醸し出しています。



●シリーズ●わが町の文化財へ108

世羅町重要文化財 普光寺開山塔

昭和62年11月11日指定

この塔は、宝篋印塔と呼ばれるタイプのもので、花崗岩製で、幅35cm、高さ60cmの方形石積の上に切石の一重基壇の上に建っています。基壇からの高さ112cmで相輪の二幅から上を欠損しています。

塔身正面の右脇に「開山道明禪師」左脇に「鏡菴和尚之塔」、裏面右脇に「正平十三年」（一三五八）、左脇に「三月廿八日建立」と陰刻がしてあります。基礎三面に輪郭付格狭間を設け、その紋様は、万福寺跡の正平12年（一二五七）の塔と同様、南北朝時代の特色を表しており、南朝の紀年銘は県内でも珍しいものです。なお、境内には未指定物件の宝篋印塔が池の脇と西側の斜面地に十数基残されています。これらの石造物は、地頭に関わる墓地であったことが想定されています。

普光寺の由緒に関しては、『世羅郡誌』に、「宝徳元年（一四四九）六月創立、開基は毛利清兵衛義勝（法名雄翁涼俊）常持仏を以って本尊とし、鏡庵道明を請して開祖とす：」とあり、開山は「道明禪師」と推定されますが、開山塔の年歴とはかなりの開きがあります。

